

森田先生とのご縁

李 熙 錫

大学院経済学研究科長

森田先生との出会いは、私が1994年4月に城西大学留学生別科に入学してからである。森田先生は、『国際政治論』という授業を担当されており、最初の授業で内容が面白く約150人の学生が圧倒されていたことが印象的であった。日本の政治は勿論、国際政治にも卓越な感覚や独自の視点をお持ちであった。特に、第2次世界大戦で日本軍が勝ち続けた理由は、一つに奇襲攻撃の展開が大きな効果につながったとの見解は、留学生であった私に印象深く残っている。

また、旧ソ連の崩壊についても、独自の見解をお持ちであり、旧西ドイツや旧東ドイツの国民の生活を比較しながら、共産主義体制の旧ソ連がなぜ崩壊することになったのかについてよく解説された。先輩達に聞くと、森田先生は旧ソ連が崩壊する前から授業でソ連が崩壊するのを予見されたとのことである。

当時、私は留学生であり、中国人留学生が100人位、韓国人留学生が20人位、その他香港、スリランカ、台湾などの学生で構成されていた。その中で、日本語力がまだ不十分であった私は、何とか講義が聞き取れるか、取れないのかの状況であったが、森田先生の授業は興味深く、笑いが絶えなかった。森田先生の講義は、分かりやすく受講生を講義に集中させる優れた能力があった。また、留学生の立場や考え方を非常に尊重してくださり、「君達は素晴らしいよ、日本に留学した君達は、本国に戻って必ず活躍できるよ。」といつも温かく接していただいた記憶がある。さらに、森田先生のユニークな一面を紹介しよう。森田先生は、アメリカ留学を終えて帰国したばかりの教え子に、アメリカでの留学経験談を発表させた。アメリカ留学も視野に入れていた私は、アメリカの実情について多くを学ぶことができ、森田先生から講義の多面性を教わった。

私は大学院修了後、城西大学語学センター非常勤講師候補として当時センター長であった森田先生の面接を受けることになった。森田先生は、私のことをよく覚えておられ、「君は頑張ったね。」と褒めていただいたことは、まだ昨日のことのよう記憶に新しい。

その後、私は城西大学経済学部に移籍した後、学部長に就任し、停滞していた名誉教授の授与を進めた。その結果、経済学部、経営学部、現代政策学部からそれぞれ授与者が確定され、その中に現代政策学部から森田先生のお名前が挙がってきた。私としては、留学生別科時代からご指導いただいた森田先生が名誉教授になられたことに、とても意義深いものを感じた。名誉教授の授与式後に、私が先生の下へご挨拶に伺うと、森田先生は、「君は経済学部長にまでなって大成

したね。」と何度も褒めてくださった。

先日、森田先生の最終講義に参加させていただいた。森田先生の講義内容の面白さや受講生を集中させる能力はやはり素晴らしく、大きな教訓をいただいたと感じており、自分自身の講義に生かすべきであると改めて感じた貴重な時間となった。

森田先生には、心から感謝申し上げます。